

第3章 検証編

1 進捗管理手法

本戦略の実効性を確保するためには、施策の進行状況や成果を適切に把握し、必要に応じて柔軟に見直す仕組みを構築することが不可欠です。このため、各施策に設定したKPI（重要業績評価指標）およびアウトプット指標に基づき、定期的な進捗評価を実施します。

進捗評価では、数値の達成度のみならず、施策の実施状況や外部環境の変化を踏まえた総合的な分析を行い、本戦略の方向性や施策内容の妥当性を検証します。特に、社会情勢や地域課題が大きく変化する可能性がある中で、柔軟かつ実効性の高い戦略運営を行うためには、PDCA（計画・実行・評価・改善）サイクルに加え、必要に応じて既存施策を抜本的に見直す「スクラップ&ビルド」の視点を取り入れることが重要です。

「スクラップ&ビルド」とは、既存の事業や制度を一度見直し、時代や地域の実情に合わなくなったものを廃止（スクラップ）し、新たな視点や手法に基づいて再構築（ビルド）する行政手法です。この手法を活用することで、従来の延長線上では対応しきれない課題にも果敢に挑戦し、本戦略の実効性と柔軟性を高めることを目指します。

2 推進体制

本戦略を着実に推進するためには、庁内の部局横断的な連携体制と、市民・事業者・関係団体との協働体制の両輪を整備することが必要です。行政内部においては、各部門が本戦略の目的と役割を共有し、部門間の壁を越えて連携・協力する体制を構築します。これにより、施策の実行力を高め、全庁一体となった戦略推進を図ります。

また、地域社会全体で戦略を支えるためには、市民や地域団体、企業、教育機関など、多様な主体との協働が不可欠です。市民の声を反映した施策づくりや、地域資源を活かした取組の展開など、共創の視点を持ったまちづくりを進めることで、戦略の実効性と持続性を高めます。

こうした体制のもとで、進捗管理と施策改善のプロセスを組織全体で支え、本戦略の成果を地域に確実に還元できるよう、不断の見直しと改善を重ねながら、持続可能な地域社会の実現を図ります。